

学んだことを活用しながら取り組んだ

4年「垂直・平行と四角形」の授業

今回はちょっと前になりますが、7月に行われた4年生の授業を紹介します。

算数教室・齋藤教諭の授業は、「ひし形の性質を理解すること」が目標でした。

4つ折りした折り紙をななめに切って四角形を作るところから授業は始まりました。どんな形になるのかは、折り紙を開いてみないとわかりません。どの子の表情も楽しそうです。できた四角形を並べてみると、どれも4つの辺の長さが同じです。正方形・平行四辺形・ひし形の3種類しかありません。

この時間は、これまでに習った「正方形」「平行四辺形」に加えて、「ひし形」が初めて登場しました。子どもたちは、正方形や平行四辺形との共通点や違いを見つけながら、「辺の長さがすべて等しい四角形はひし形」という性質を理解していきました。自分たちの作った四角形が教材になるのですから、当然意欲が高まります。体験しながら学ぶことで、理解も深まったはずです。

教室にはこれまでに学んだ内容がびっしりと掲示されていました。学んだことを活用しながら新たな問題に取り組んでほしいという子どもたちへの願いが壁の掲示にも表れています。

4年2組・遠藤教諭の授業は、「ひし形をかけるようになること」が目標でした。「ひし形は4つの辺の長さが等しい」という性質を生かして、コンパスだけでかいていきます。初めての子にとっては難しい課題です。おたがいのやり方を見合いながら取



り組んでいきました。

授業では、学び合う活動が重要です。算数の問題は、答えは一つでも、解き方は1通りとは限りません。学び合う活動を通して、多様な考え方にふれることが、柔軟な思考力を養います。また、仲間のよい点に学んで自分の励みにしたり、仲間に教えることで理解をより深めたりしていきます。

4年1組・保延教諭の授業は、「対角線の意味や特徴を理解すること」が目標でした。

授業は写真を使った図形クイズからスタートしました。子どもたちはこれまでの学習を思い出して考えていました。楽しみながら集中力が一気に高まりました。

対角線の授業は、台形、ひし形などの四角形に対角線をかきこんでから、特徴を見つけていくという流れが一般的です。つまり、「四角形→対角線」という順です。

けれども今回は、2本の棒を交差させ対角線に見立てていろいろな四角形を作っていました。つまり、「対角線→四角形」の順です。



はじめは同じ長さの棒を使って四角形を作ります。正方形・長方形・台形はできますが、平行四辺形やひし形はできません。「ちがう長さの棒がほしい」という子どもたちの声に答えて別の棒をわたすと、平行四辺形やひし形も作ることができました。

「対角線→四角形」の順にすることで、「作る楽しさ」「発見する喜び」を感じることができました。

右の写真は教材作りをしている様子です。授業をした3人は、前日の夜も遅くまで試行錯誤しながら残っていました。授業には、どの教室でも必ず成功する方法というものがありません。それが授業の難しさであり、おもしろさでもあります。

橋戸小の教師たちは、研究授業の時だけでなく普通の授業でも、もっと子どもたちが興味をもてるよう、もっと深く理解できるよう、悩みながら授業をしています。

